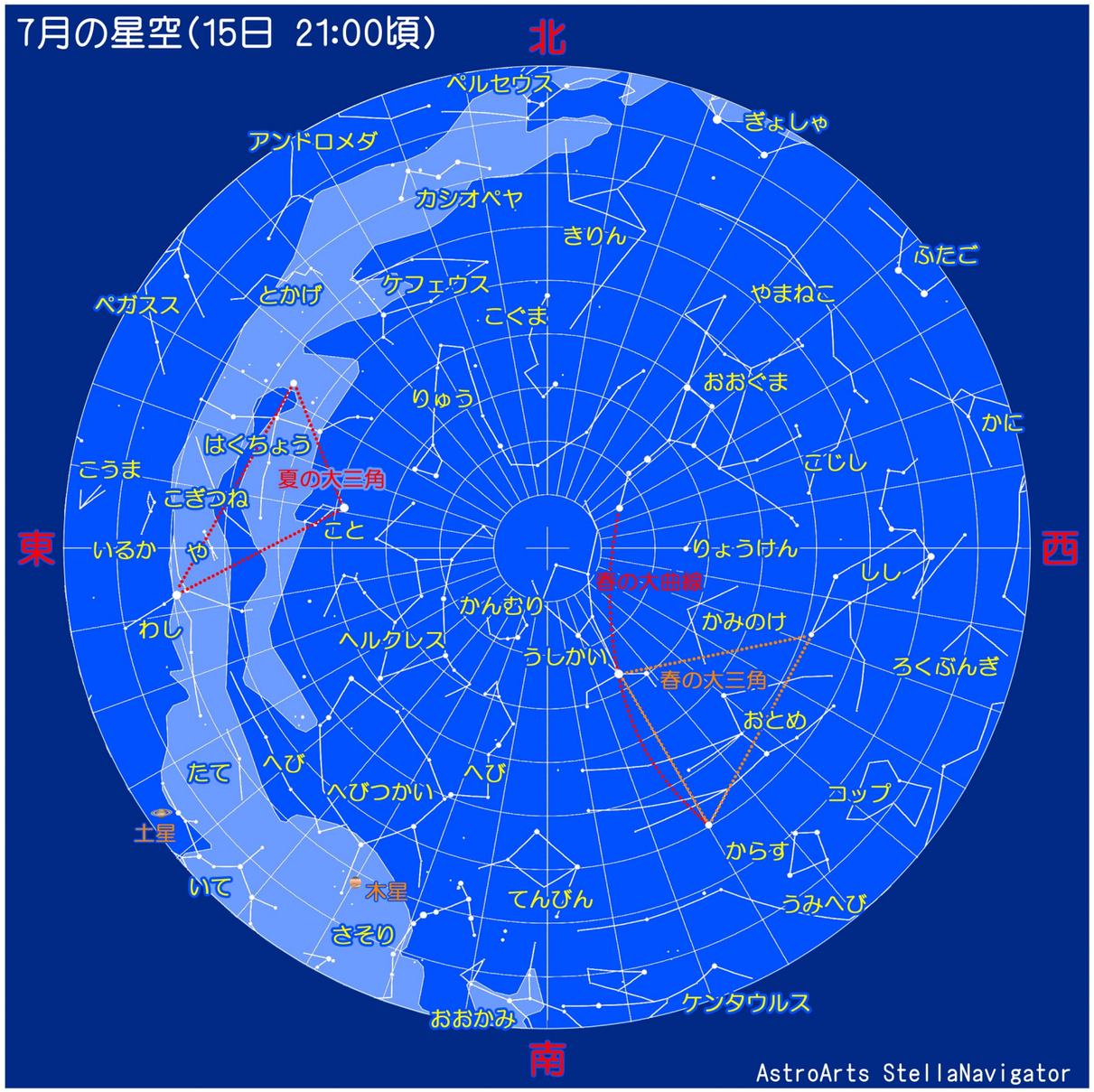
銀河の森天文台
2019年7月みどころ天体情報



今月のイチオシ！

☆静かの海

　月の中央から東寄り、餅つきをしているうさぎの顔の部分にあたるのが、静かの海です。

　５０年前、アポロ11号で人類が初めて月に降り立った場所が静かの海で、右の画像の✖印がその着陸地点です。残念ながら月に残された月着陸船の足の部分は小さいため、りくり望遠鏡では見ることはできませんが、望遠鏡をのぞいて５０年前の快挙を思い浮かべましょう。

アポロ11号着陸地点

月

		出	没
3日	●新月	03:55	19:38
9日	◐上弦	11:08	23:26
17日	○満月	19:21	03:58
25日	◑下弦	23:05	11:54

天文台から月を見ることができるのは5～18日頃、望遠鏡での見頃は上弦前後です。

距離：約38万km

土星

　見事な環を持つことで人気の土星が、10日にいて座で衝を迎え、見頃となっています。おなじみの環も開いていて見やすい角度になっています。土星の高度が上がる閉館近くの時間がオススメです。

太陽からの距離：約14億3000万km

木星

　太陽系で一番大きな惑星で、その直径は地球の約11倍にもなります。大赤斑と呼ばれる巨大な渦と、縞模様が特徴的です。ガリレオ衛星と呼ばれる、特に明るい衛星が４個あるので探してみましょう。

太陽からの距離：約7億8000万km

M13（球状星団）

　北天で最も明るい球状星団で、位置さえ知っていれば双眼鏡でも簡単に見つけることができます。望遠鏡では、中心部まで星が密集した見事な姿を観察することができます。

距離：約2万5100光年

M57（惑星状星雲）

　リング状星雲、ドーナツ星雲などと呼ばれるように環の形に見える星雲です。

　これは、恒星が一生を終えようとするときに放出したガスが光っているものです。

距離：約2600光年

M27（惑星状星雲）

　こぎつね座に位置する惑星状星雲で、鉄アレイのような形に見えることから、アレイ状星雲と呼ばれています。

　明るく大きな惑星状星雲で、双眼鏡でも見つけることができます。

距離：約820光年

M11（散開星団）

　いて座とわし座の間の天の川の濃くなっている部分たて座にある密集度の高い散開星団です。

　望遠鏡では、視野いっぱいに星が散らばる様子を観察することができます。

距離：約5610光年

ちょっとマニア

・いるか座

　夏の大三角のすぐ東側に位置し、明るい星はありませんが、小さくまとまっていて意外に見つけやすい星座です。ひし形を作る４つの星に尾の星が並ぶそのかわいらしい姿から人気の高い星座でもあります。

その他おすすめ

- M8（散光星雲）
- M12（球状星団）
- M20（散光星雲）
- M22（球状星団）
- アルビレオ（重星）
- ダブルダブルスター（重星）

7・8月の銀河の森天文台カレンダー

7月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

8月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

開館時間
14:00～22:30
（4月～9月）
13:00～21:30
（10月～3月）

休館日